

平成 29 年度 三重大学修学達成度評価 報告書（概要）

－三重大学生の 4 つの力に関するアンケート－

地域人材教育開発機構
 教学 IR・教育評価開発部門

1. アンケートの概要

1.1 アンケート 1（春実施）

調査対象 平成 29 年度新入学生 1,370 名

調査方法 新入生が受講する授業等にて、アンケート用紙を学生に配付・回収した。

調査時期 平成 29 年 4 月～5 月

1.2 アンケート 2（秋実施）

調査対象 三重大学に在籍する学部生 6,066 名

調査方法 三重大学ウェブ調査システムを用いて実施した。

（一部の学科・学年において紙媒体での回答があった）

調査時期 平成 29 年 9 月



1.3 分析対象者数

分析対象者は表 1 の通りであった。回答率についてアンケート 1 は 95.3%、アンケート 2 は 75.4%であった。

表1 分析対象者数

		人文	教育	医	工	生物資源	合計	
アンケート (春) 1	1年生	240	203	198	398	266	1,305	
	2年生	248	204	192	391	270	1,305	
アンケート (秋) 2	3年生	249	210	151	368	233	1,211	
	4年生	218	194	152	391	224	1,179	
	5年生	125	197	110	267	122	821	
	6年生			3			3	
				57			57	
							4,576	

2. 「4つの力」の結果について



2.1 「感じる力」

感じる力の下位概念 ①感性、②共感、③倫理観、④モチベーション、⑤主体的学習力、⑥心身の健康に対する意識について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

①感性

「考えたことだけではなく、感じ取ったことも大事にしている」は、アンケート2（秋実施）の学年を通して選択率が90%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.1.1 感性(感じる力)の選択率(全学部生)

感じる力	①感性	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	相手が感じていることを同じように感じ取ることができる	52.7%	81.1%	78.0%	76.3%	82.1%	78.9%
	文章や作品などで表現をする際に、自らの感性を意識して行うことができる	38.8%	73.3%	77.0%	74.3%	78.1%	75.0%
	考えたことだけではなく、感じ取ったことも大切にしている	66.7%	92.7%	90.3%	90.8%	91.1%	90.8%
	学習の振り返りにおいて、獲得した知識だけではなく、感性の観点も意識することができる	22.2%	68.6%	70.0%	71.2%	74.5%	70.3%
	自らの感性がどのようなものか意識することができる	34.6%	69.4%	71.6%	70.3%	77.2%	71.2%

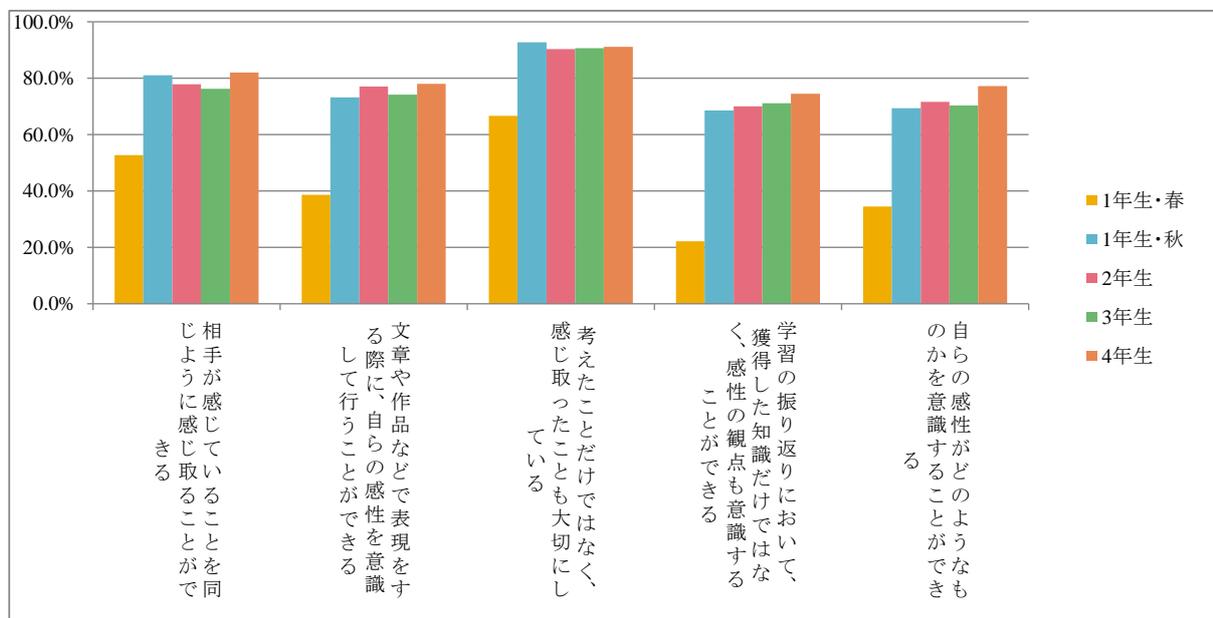


図2.1.1 感性(感じる力)の選択率(全学部生)

②共感

「他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる」や「他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.1.2 共感(感じる力)の選択率(全学部生)

感じる力	②共感	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	他者がおかれている状況を想像しながら相手の話を受け止め、共感的態度を示すことができる	74.8%	92.3%	87.4%	87.6%	88.3%	88.8%
	他者の考えをくみとり、他者が行動しやすいように支援を行う	62.4%	85.8%	83.0%	83.6%	86.8%	84.3%
	自分の考え・意見との相違にかかわらず、他者の意見・考えがなぜそれに至ったかをその人の立場に立って理解することができる	45.9%	76.2%	75.6%	79.0%	80.9%	77.3%
	共感すべき対象や事柄が周囲にあるとき、それに敏感に気づくことができる	46.3%	72.5%	70.5%	73.5%	75.6%	72.4%
	社会の中で困っている人のことに思いをはせて、自分に関連づけて考えることができる	41.8%	69.7%	69.4%	67.3%	74.9%	69.4%

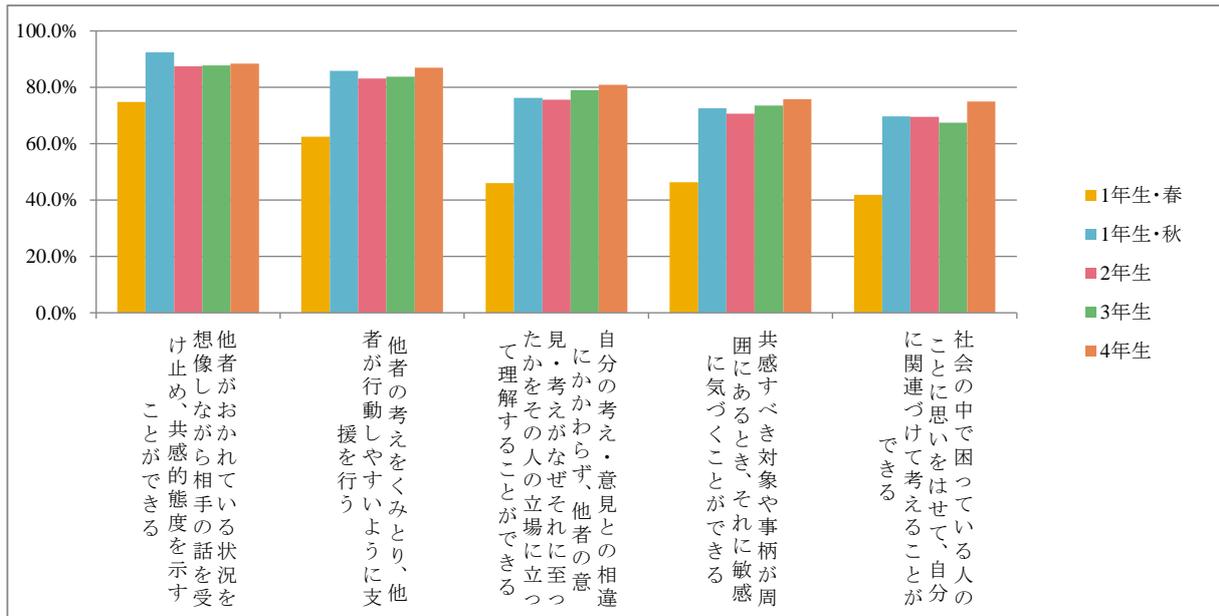


図2.1.2 共感(感じる力)の選択率(全学部生)

③倫理観

表2.1.3 倫理観(感じる力)の選択率(全学部生)

	1年生・春 全回答数 1,305件	1年生・秋 全回答数 1,305件	2年生 全回答数 1,211件	3年生 全回答数 1,179件	4年生 全回答数 821件	全学部生 全回答数 4,576件
③倫理観						
自己の欲求だけでなく、倫理的な基準をふまえた判断や自己決定ができる	68.4%	86.0%	85.1%	85.7%	86.7%	85.5%
自分勝手な判断ではなく、社会で決められたルール(ゴミの分別、交通ルールや駐車場の適切な利用など)を守っている	82.6%	92.9%	87.9%	88.0%	87.8%	88.9%
専門領域における倫理的な判断ができる	21.7%	60.4%	65.4%	71.2%	77.6%	67.5%
他者が行っている倫理に反する行動に注意することができる	33.9%	62.7%	63.9%	62.8%	72.5%	64.4%
著作権に関する知識を持ち、それを守ることができる	40.7%	80.0%	81.1%	80.2%	83.1%	80.3%

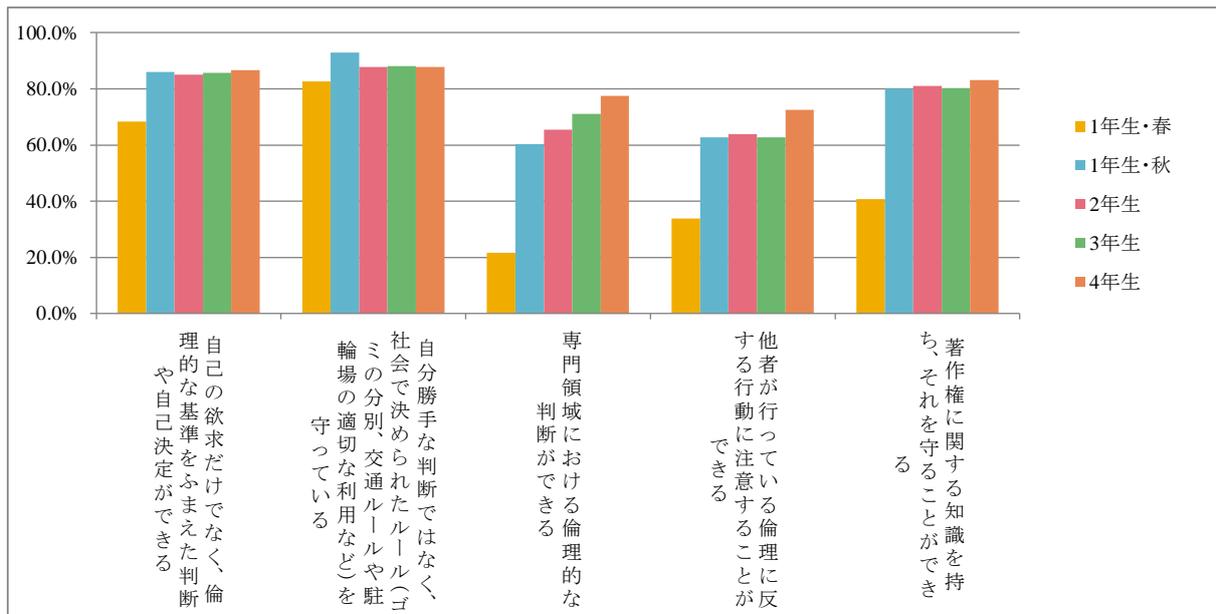


図2.1.3 倫理観(感じる力)の選択率(全学部生)

「自分勝手な判断ではなく、社会で決められたルール（ゴミの分別、交通ルールや駐輪場の適切な利用など）を守っている」について、アンケート1（春実施）とアンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。また、「自己の欲求だけでなく、倫理的な基準をふまえた判断や自己決定ができる」や「著作権に関する知識を持ち、それを守ることができる」については、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。「専門領域における倫理的な判断ができる」については、学年進行によって選択率が高くなっている。倫理観に関する項目は全体的に選択率が高いが、「他者が行っている倫理に反する行動に注意することができる」については、選択率が低かった。

④モチベーション

学年間で比較すると、どの項目も4年生の選択率が高かった。

表2.1.4 モチベーション(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
感じる力	④モチベーション	全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	与えられた課題の中でも意義や面白さを見つけていることができる	51.9%	74.6%	75.1%	73.3%	82.0%	75.6%
	常に長期的目標・短期的目標を設定し、意識しながら大学生活を送っている	34.4%	61.7%	61.8%	60.6%	72.0%	63.0%
	うまく進まなかったり、失敗したりした場合でも、目標達成のために辛抱強くやり続けることができる	51.8%	76.7%	74.5%	74.5%	81.4%	76.0%
	適度に自信をもって行動にとりくむことができる	47.6%	69.0%	68.8%	67.3%	74.9%	69.2%
	大学で学んだことや大学生生活での経験を通して、やりたいことを持っている	57.0%	75.0%	72.2%	72.3%	80.5%	74.1%

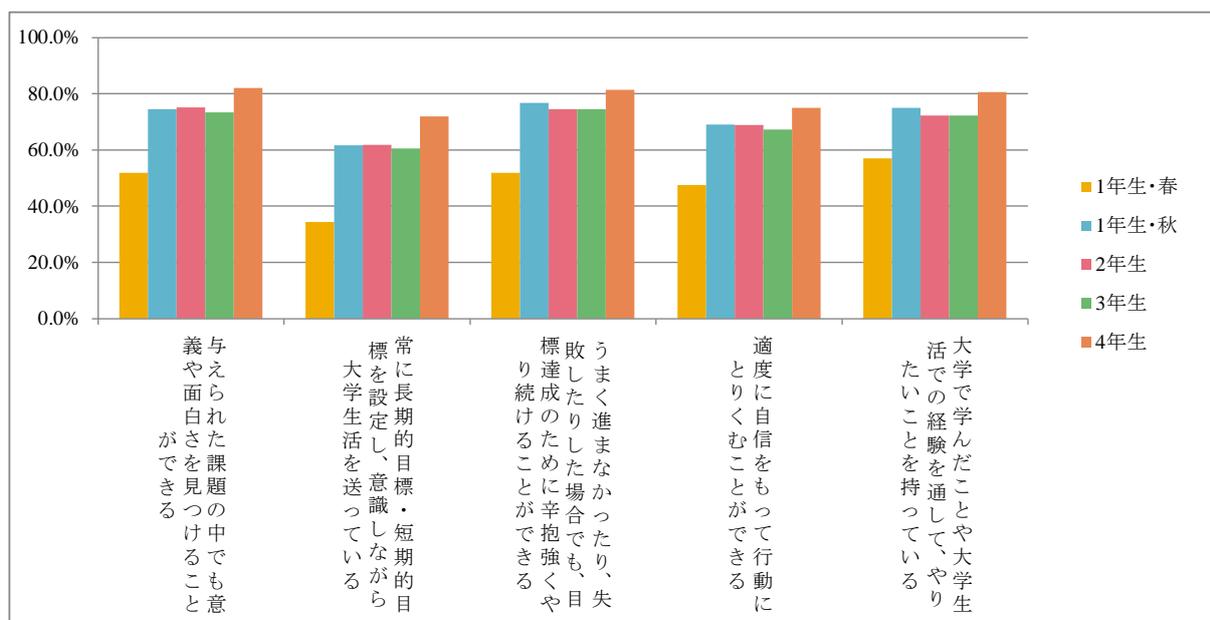


図2.1.4 モチベーション(感じる力)の選択率(全学部生)

⑤主体的学習力

「e-portfolio などにより、学びの履歴を蓄積し、振り返り、活用できるようにしている」の選択率が低かった。「与えられたもの以外にも自分で調べたり学習を進めている」は、学年進行によって選択率が高くなっている。

表2.1.5 主体的学習力(感じる力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
感じる力	⑤主体的学習力	全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	与えられたもの以外にも自分で調べたり学習を進めている	33.9%	56.2%	61.7%	64.2%	74.1%	63.0%
	締め切りなどを勘案して、計画的に学習を進めることができる	54.9%	69.4%	66.1%	65.1%	71.5%	67.6%
	誘惑に負けずに、学習すべき時間をきちんと自己決定して確保することができる	28.3%	52.1%	53.9%	50.2%	61.3%	53.4%
	e-portfolio などにより、学びの履歴を蓄積し、振り返り、活用できるようにしている	6.7%	28.0%	31.4%	31.5%	38.2%	31.5%
	学習資源(図書館・教員・インターネット・講演会・学会・研究会への参加)の活用ができる	41.1%	74.6%	74.2%	76.6%	78.9%	75.4%

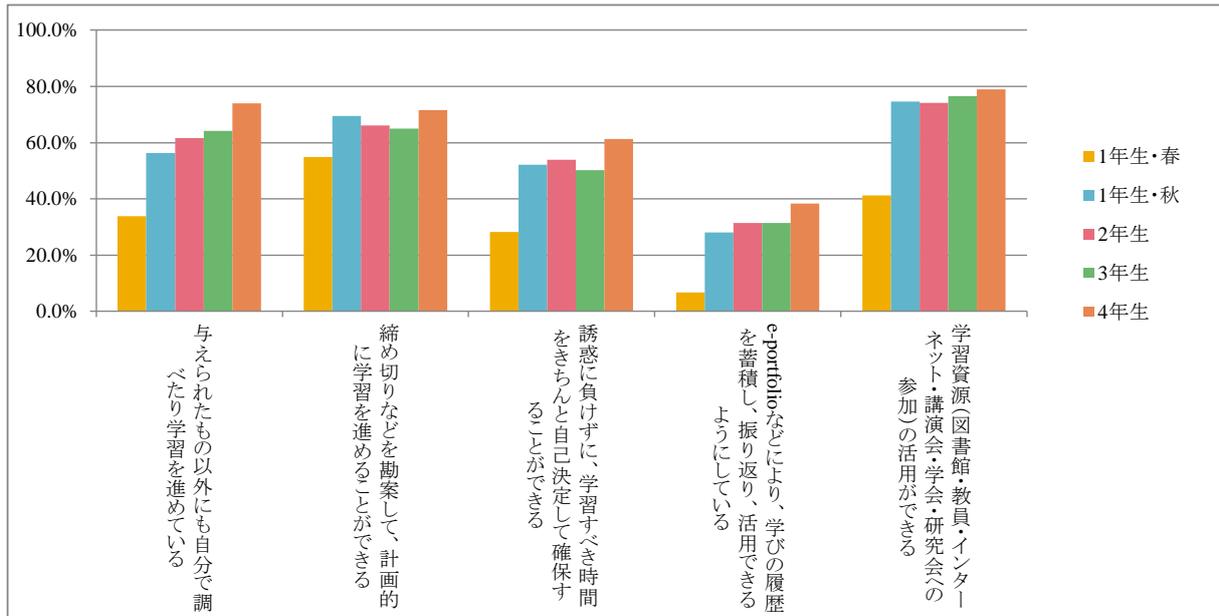


図2.1.5 主体的学習力(感じる力)の選択率(全学部生)

⑥心身の健康に対する意識

「早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている」については、選択率が低く、どの学年も50%台の選択率であった。「自分の物事の進め方に対するペースや感情、身体状態について把握できている」は、アンケート2(秋実施)の全学年を通して選択した学生が多かった。

表2.1.6 心身の健康に対する意識(感じる力)の選択率(全学部生)

	1年生・春 全回答数 1,305件	1年生・秋 全回答数 1,305件	2年生 全回答数 1,211件	3年生 全回答数 1,179件	4年生 全回答数 821件	全学生 全回答数 4,576件
⑥心身の健康に対する意識						
早寝・早起き・朝ご飯など基本的な生活リズムが整っている	55.0%	59.5%	53.7%	55.2%	54.6%	55.9%
感情の昂ぶりや落ち込みをコントロールすることができる	48.6%	71.5%	69.9%	64.0%	73.0%	69.0%
定期的に適度な運動を行っている	47.7%	66.1%	61.9%	58.0%	62.9%	62.1%
自分の物事の進め方に対するペースや感情、身体状態について把握できている	58.2%	84.8%	81.1%	77.9%	81.4%	80.9%
自分の無理ができる限界を知っている	49.8%	73.3%	70.8%	70.5%	78.9%	72.6%

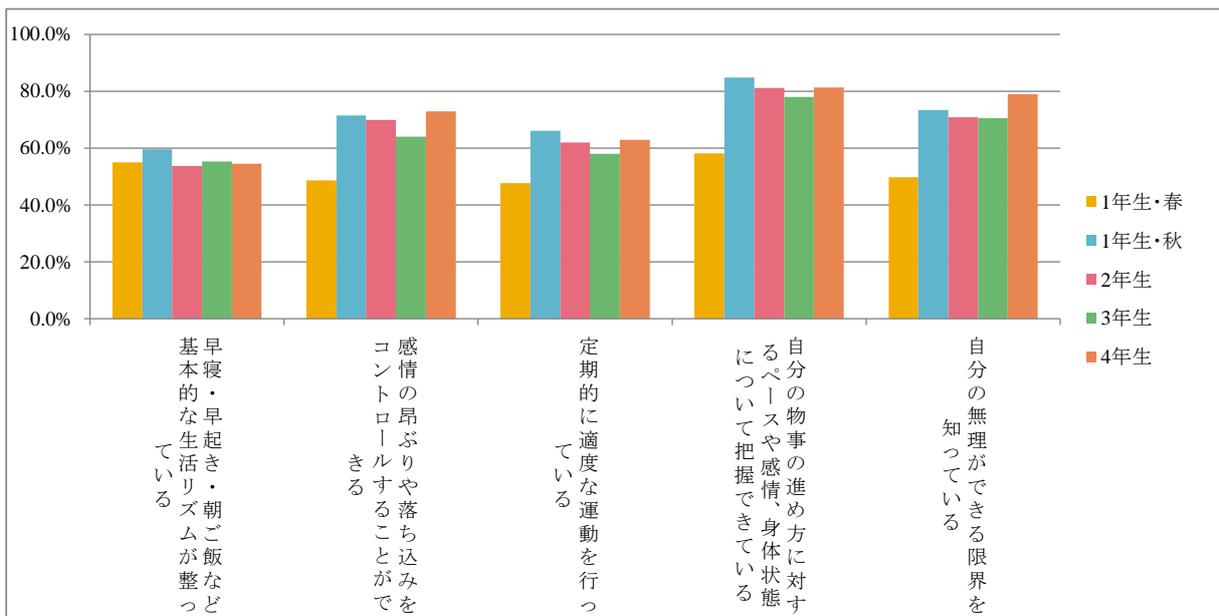


図2.1.6 心身の健康に対する意識(感じる力)の選択率(全学部生)



考える力の下位概念 ⑦幅広い教養、⑧専門知識・技術、⑨論理的思考力、⑩批判的思考力、⑪課題探求力、⑫問題解決力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑦幅広い教養

「自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる」について、全学年を通して選択率が低かった。

表2.2.1 幅広い教養(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
⑦幅広い教養		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
考える力	学問に分野による優劣はなく、どの学問も重要であるという敬意を持っている	55.9%	78.3%	78.0%	79.6%	82.7%	79.2%
	自分の専門分野以外についても、興味関心を持って知識や技能を得ようとしている	59.3%	78.9%	74.6%	74.1%	78.8%	76.1%
	自分の専門と他の学問との関わりについて説明することができる	17.5%	47.5%	52.9%	53.6%	64.2%	53.3%
	社会の一員として必要とされる教養について知っていて、それを磨こうとしている	38.2%	75.8%	73.2%	72.2%	78.4%	74.1%
	ニュース・新聞などを使って時事問題についての関心を広げている	40.7%	61.0%	57.8%	59.6%	67.0%	60.6%

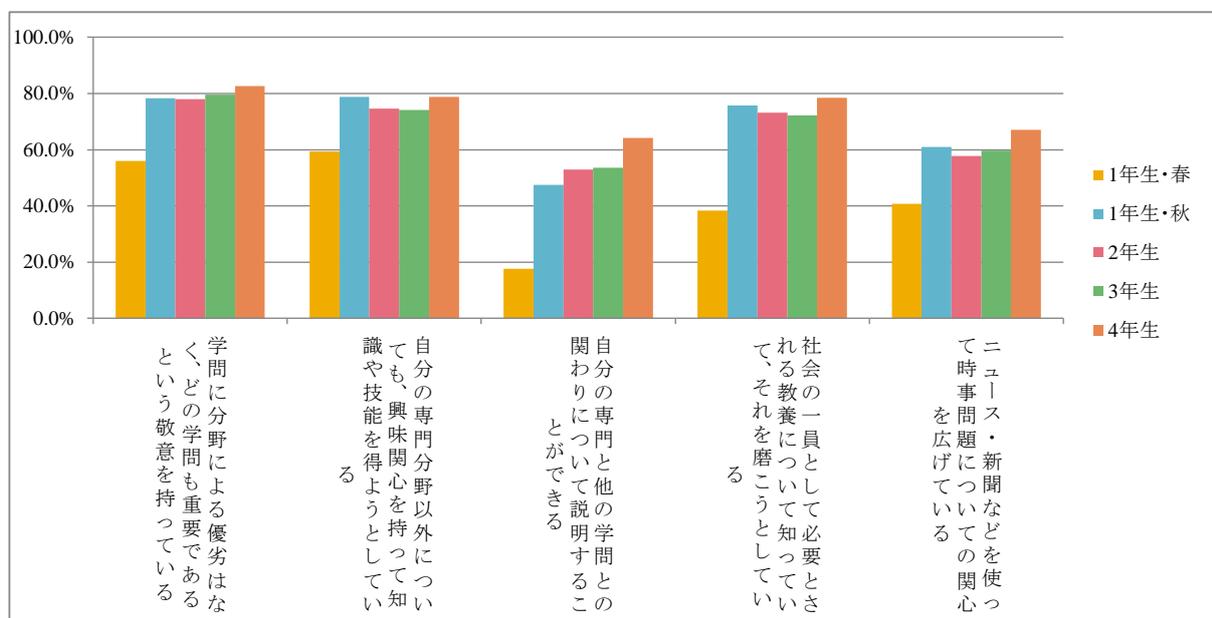


図2.2.1 幅広い教養(考える力)の選択率(全学部生)

⑧専門知識・技術

「授業を通して専門領域の基本的な概念やスキル、技能を習得した」については、2年生以上の学年で選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。それ以外の項目の選択率は低かったが、学年進行に従って高くなっており、学年間を比較すると4年生の選択率が最も高かった。

表2.2.2 専門知識・技術(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
⑧専門知識・技術		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
考える力	授業を通して専門領域の基本的な概念やスキル、技能を習得した	24.9%	74.2%	81.2%	85.2%	85.3%	80.8%
	授業以外で、定期的に専門的知識・技能を手に入れる習慣ができている(例: 専門雑誌の講読、教員への質問、専門的トレーニングなど)	17.6%	42.6%	48.7%	51.6%	63.8%	50.2%
	専門領域の中で自分の研究テーマ(追求したいテーマ)が定まっている	28.0%	45.8%	44.7%	48.6%	78.1%	51.8%
	自分の専門について、知らない人にわかりやすく説明ができる	15.5%	39.6%	44.5%	52.0%	68.6%	49.1%
	専門的知識や技術を使って、同じ専門の人とやりとりができる	12.1%	36.6%	43.4%	51.3%	63.2%	47.0%

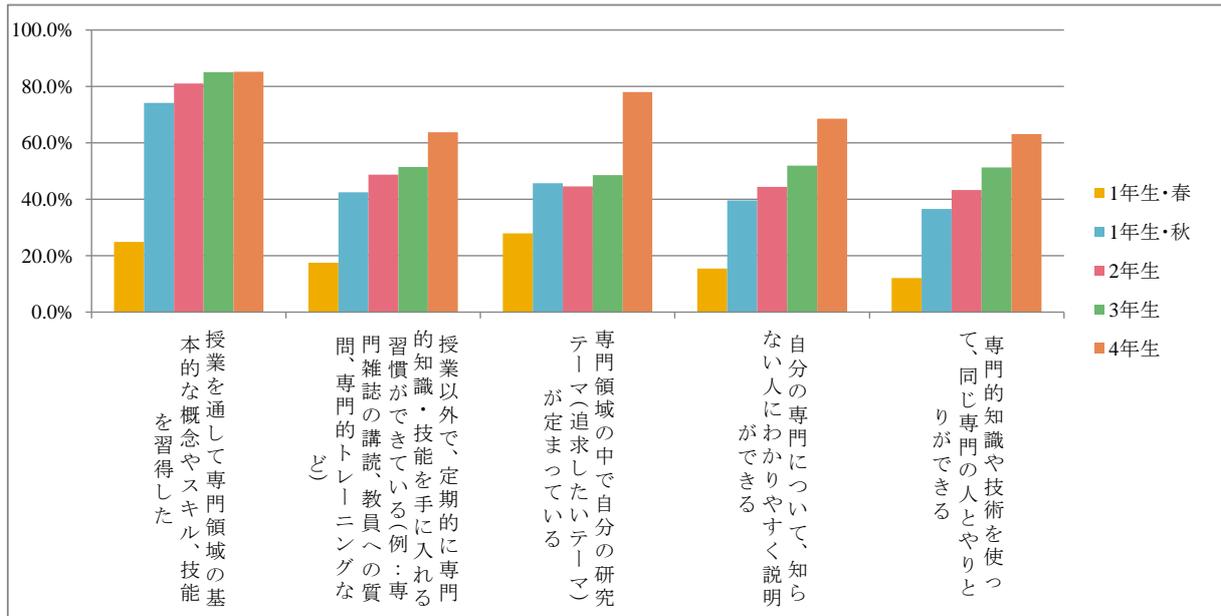


図2.2.2 専門知識・技術(考える力)の選択率(全学部生)

⑨論理的思考力

「他者との意見について、事実と意見の区別をしながら受け取ることができる」については、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%程度と高く、選択した学生が多かった。

表2.2.3 論理的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

考える力	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
	全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
⑨論理的思考力						
論理的であるかどうかという観点から物事を判断することができる	41.1%	74.3%	75.1%	76.7%	82.5%	76.3%
物事を分かりやすく順序立てて説明することができる	28.8%	62.5%	60.5%	63.5%	68.0%	63.0%
序論、本論、結論の流れで文章を書くことができる	29.7%	71.0%	70.4%	70.0%	73.0%	70.5%
自らが主張を行う際、その根拠として適切な客観的事実を示すことができる	33.5%	71.1%	70.4%	70.1%	75.2%	71.0%
他者の意見について、事実と意見の区別をしながら受け取ることができる	56.9%	84.6%	80.5%	79.2%	84.4%	81.5%

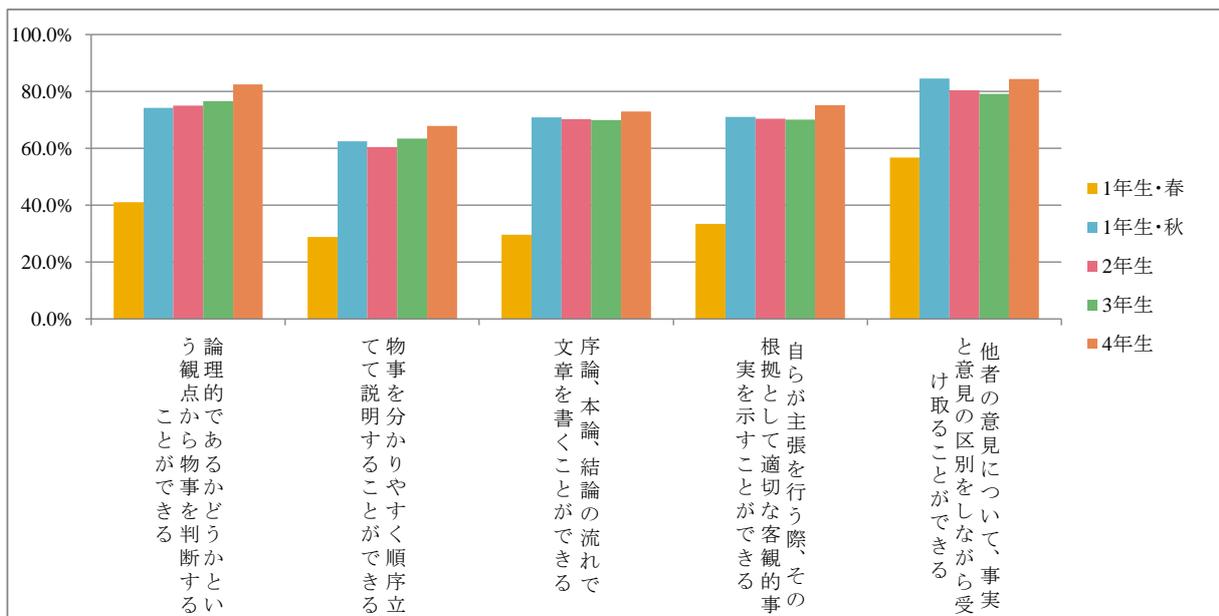


図2.2.3 論理的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

⑩批判的思考力

多くの項目について、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が高かった。特に「自分が考えたことや思考過程について、それで良いのかを問うことができる」については、アンケート2（秋実施）の全学年を通して80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.2.4 批判的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
考える力	⑩批判的思考力	1,305件	1,305件	1,211件	1,179件	821件	4,576件
	思考をする際、その本質を捉えようと意識している	54.0%	81.9%	78.4%	81.6%	84.8%	81.2%
	自分が考えたことや思考過程について、それで良いのかを問うことができる	57.5%	86.1%	81.3%	82.8%	85.4%	83.3%
	他者の意見や議論の矛盾や盲点を発見することができる	41.0%	75.9%	72.4%	73.3%	75.0%	73.7%
	人の見かけや地位、これまでの実績のみによって、意見の善し悪しを判断しない	54.5%	82.5%	79.9%	78.0%	82.2%	80.1%
多様な観点から考えの善し悪しを判断できる	41.3%	79.9%	78.9%	78.4%	83.4%	79.3%	

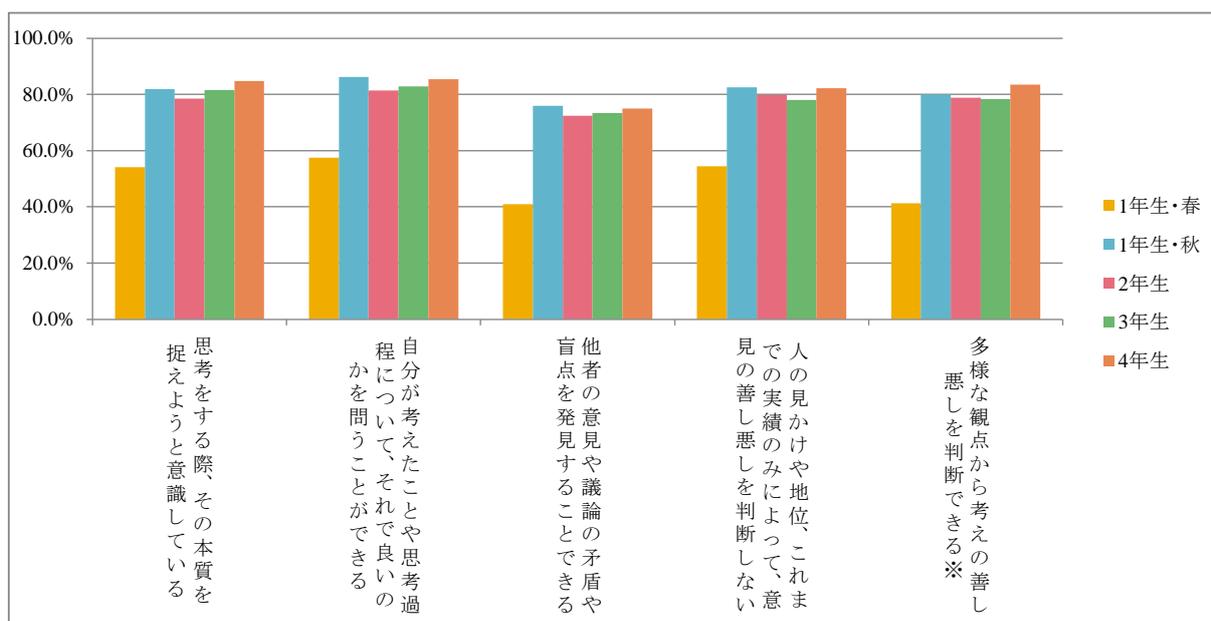


図2.2.4 批判的思考力(考える力)の選択率(全学部生)

⑪課題探求力

「直面する複数の課題の優先順位をつけることができる」については、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が高く、80%以上選択した学年も見られた。

表2.2.5 課題探求力(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数	全回答数
考える力	⑪課題探求力	1,305件	1,305件	1,211件	1,179件	821件	4,576件
	答えのない問いを問い続けることができる	29.3%	55.6%	59.1%	58.9%	64.8%	59.0%
	今何をしないといけないかという、探求すべき課題をはっきりさせることができる	44.4%	73.6%	72.5%	72.9%	77.0%	73.3%
	直面する複数の課題の優先順位をつけることができる	54.4%	81.6%	79.4%	76.8%	83.1%	79.5%
	自ら課題を発見して、それを解決することができる	27.7%	66.3%	65.5%	65.8%	77.8%	67.6%
	様々なアイデアを整理して、探求可能な課題として設定することができる	24.3%	66.2%	66.1%	64.6%	73.0%	66.6%

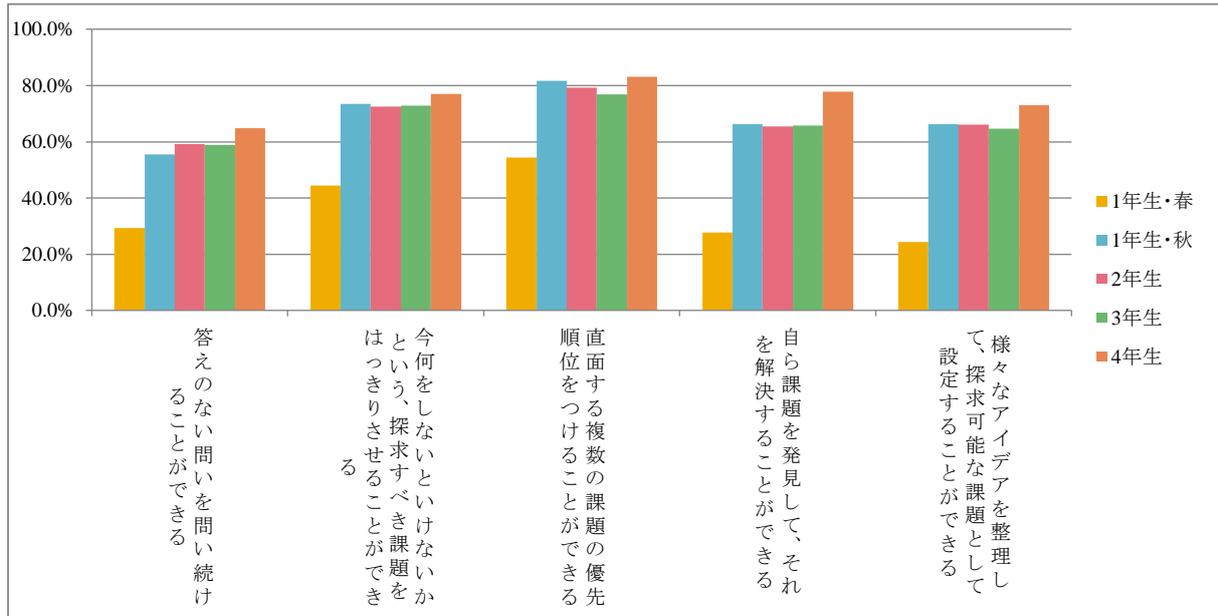


図2.2.5 課題探求力(考える力)の選択率(全学部生)

⑫問題解決力

「他者と協力しながら問題を解決することができる」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.2.6 問題解決力(考える力)の選択率(全学部生)

		1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
考える力	⑫問題解決力	全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	問題を解決するために創意・工夫を繰り返すことができる	41.1%	76.9%	74.6%	74.4%	78.9%	75.6%
	問題解決のための「To Do リスト」を作ることができる	34.0%	66.7%	62.5%	64.8%	72.0%	65.9%
	多様な解決方法の中から、状況や条件に適した方法を選択できる	39.4%	78.3%	76.1%	75.3%	79.4%	76.6%
	問題解決に向けて実現可能な計画を立てることができる	33.9%	72.0%	69.6%	68.9%	78.7%	71.3%
	他者と協力しながら問題を解決することができる	57.4%	85.0%	82.9%	80.2%	85.4%	82.7%

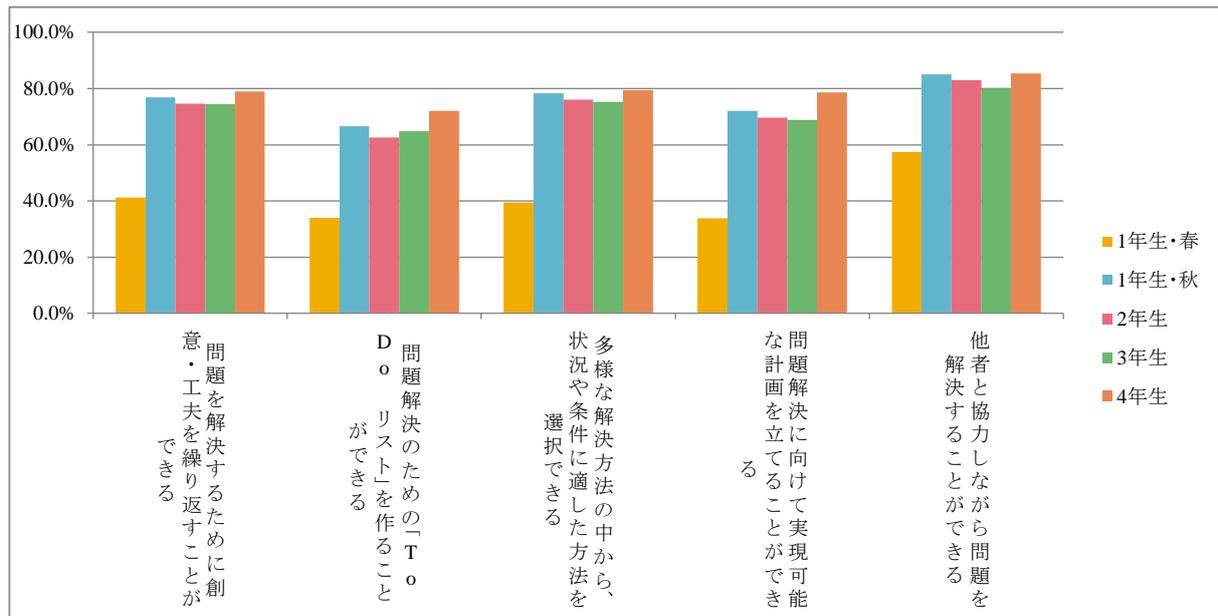


図2.2.6 問題解決力(考える力)の選択率(全学部生)



コミュニケーション力の下位概念 ⑬情報受発信力、⑭討論・対話力、⑮指導力・協調性、⑯社会人としての態度、⑰実践外国語力について、学生は各項目について自分がその項目にあてはまると思うものをチェックした。項目と学年ごとの選択率を以下に示す。

⑬情報受発信力

「学会や研究会、発表会などで研究や学習の成果について発表を行った」や「自己アピールがうまくできる」については、選択率が低かった。しかし、どちらの項目も4年生の選択率は他の学年に比べると非常に高かった。

表2.3.1 情報受発信力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春 全回答数 1,305件	1年生・秋 全回答数 1,305件	2年生 全回答数 1,211件	3年生 全回答数 1,179件	4年生 全回答数 821件	全学生 全回答数 4,576件
コ ム ニ カ ー シ ョ ン	⑬情報受発信力						
	偏りがある情報の中から、適切な情報を選別することができる	43.8%	79.2%	73.8%	74.0%	77.0%	75.7%
	学会や研究会、発表会などで研究や学習の成果についての発表を行った	13.7%	48.7%	39.5%	41.3%	49.9%	44.4%
	図書館や文献検索システムを利用して、必要な情報を集めることができる	38.5%	80.8%	78.3%	79.4%	80.1%	79.1%
	情報を収集したり、自ら情報発信するためにインターネットの適切な使い方が分かっている	43.7%	82.4%	79.6%	79.4%	82.5%	80.2%
自己アピールがうまくできる	18.1%	40.2%	42.3%	41.3%	52.7%	43.1%	

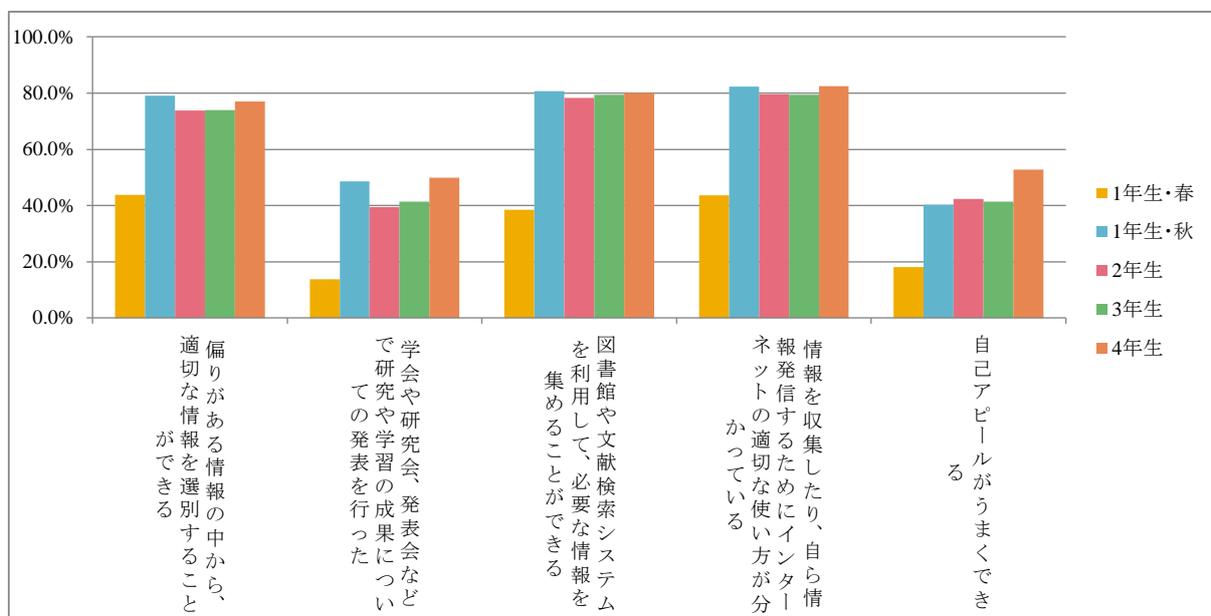


図2.3.1 情報受発信力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑭討論・対話力

「相手の話を最後まで聴く」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と非常に高く、選択した学生が多かった。

表2.3.2 討論・対話力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

		1年生・春 全回答数 1,305件	1年生・秋 全回答数 1,305件	2年生 全回答数 1,211件	3年生 全回答数 1,179件	4年生 全回答数 821件	全学生 全回答数 4,576件
コ ム ニ カ ー シ ョ ン	⑭討論・対話力						
	自分の意見を説得力のある形で伝えることができる	24.9%	56.9%	57.6%	56.4%	65.5%	58.3%
	相手の話を最後まで聴く	75.7%	89.0%	85.5%	84.6%	86.7%	86.2%
	自分と異なる意見も尊重し、先入観なく最後まで理解した上で、自らの意見を伝えることができる	50.3%	78.9%	75.8%	76.3%	82.3%	77.6%
	相手が受け入れやすい形で自分の意見を伝えることができる	31.9%	71.0%	68.0%	70.0%	74.4%	70.2%
議論が対立した場合でもその調整を行い、結論にたどり着くことができる	28.0%	72.9%	71.0%	67.4%	76.9%	71.1%	

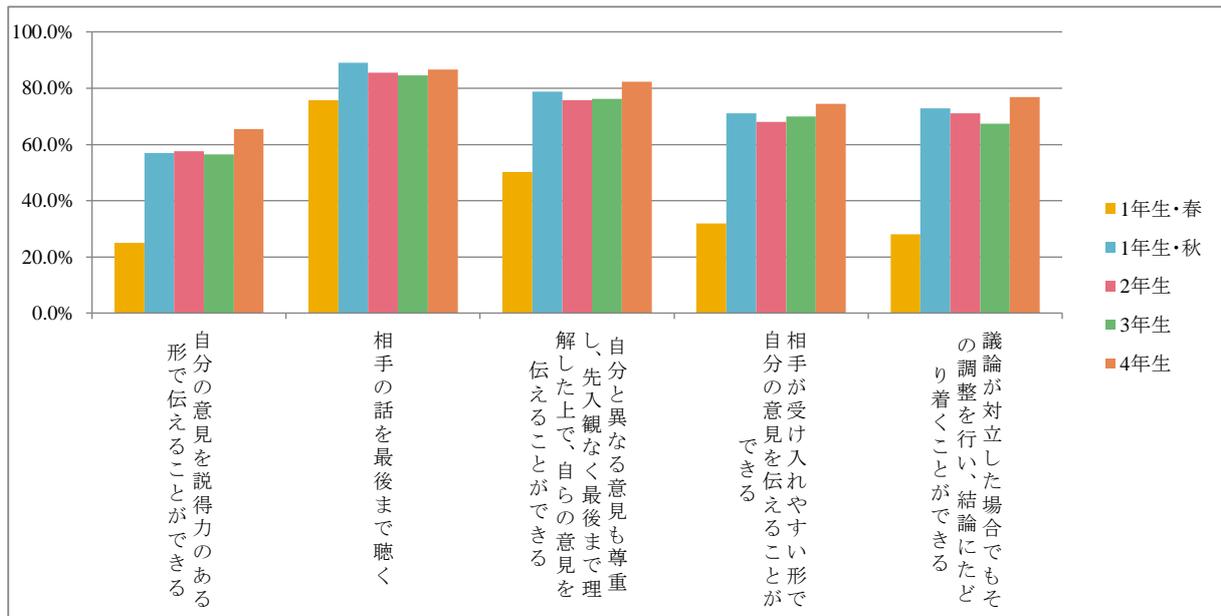


図2.3.2 討論・対話力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑮指導力・協調性

「自ら所属しているグループに貢献する行動を取れる」や「自分の考えに反することでもグループ全体にとってメリットがあることを優先する」は、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が80%以上と高く、選択した学生が多かった。

表2.3.3 指導力・協調性(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
⑮指導力・協調性	全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
自ら所属しているグループに貢献する行動を取れる	53.0%	82.8%	80.8%	81.2%	84.0%	81.7%
自分の考えに反することでもグループ全体にとってメリットがあることを優先する	56.1%	85.4%	81.4%	80.7%	82.8%	82.2%
初対面の人や気の合わない人、分野が違う人とでも共通の目標に向けて協力しあうことができる	48.1%	78.5%	73.2%	74.8%	81.2%	76.2%
成果目標を示して他人を巻き込む体験をした	16.9%	50.0%	51.3%	53.9%	62.2%	53.3%
グループの活動が停滞したときに、メンバーに声をかけて前に進めることができる	29.5%	68.2%	63.8%	65.4%	74.7%	67.0%

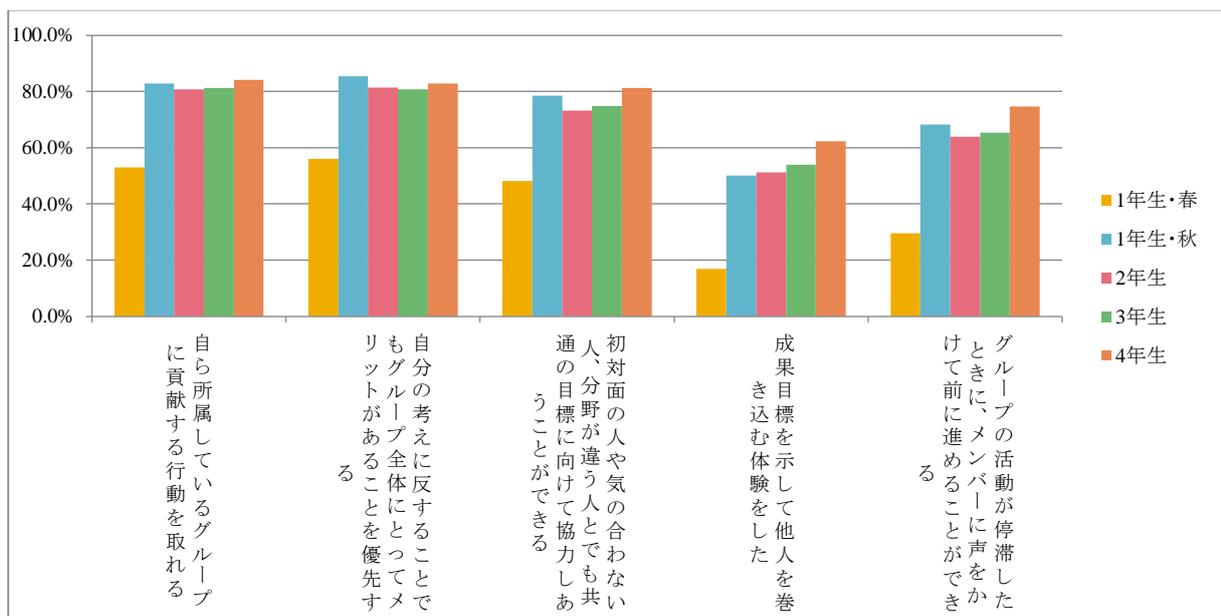


図2.3.4 指導力・協調性(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑩社会人としての態度

全項目について、アンケート2（秋実施）の全学年を通して選択率が高かった。そのほとんどは選択率が80%以上と非常に高かった。

表2.3.4 社会人としての態度(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

コミュニケーション力	⑩社会人としての態度	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	社会人としてのマナーを意識して行動することができる(例:挨拶、時間厳守、敬語、手紙やメールの作法、受講態度など)	66.5%	87.7%	85.5%	85.3%	84.4%	85.6%
	他人の助言に耳を傾けることができる	73.9%	92.2%	88.4%	87.2%	89.0%	88.9%
	与えられた任務を責任感と当事者意識を持って遂行することができる	51.3%	86.7%	85.0%	84.5%	85.4%	84.9%
	場や状況に応じて適切な振る舞いをその都度考え、選択することができる	53.7%	87.3%	84.6%	84.6%	84.8%	84.8%
	三重大学という集団の一員として見られていることを意識して行動ができている	40.5%	77.0%	72.3%	74.2%	79.8%	74.9%

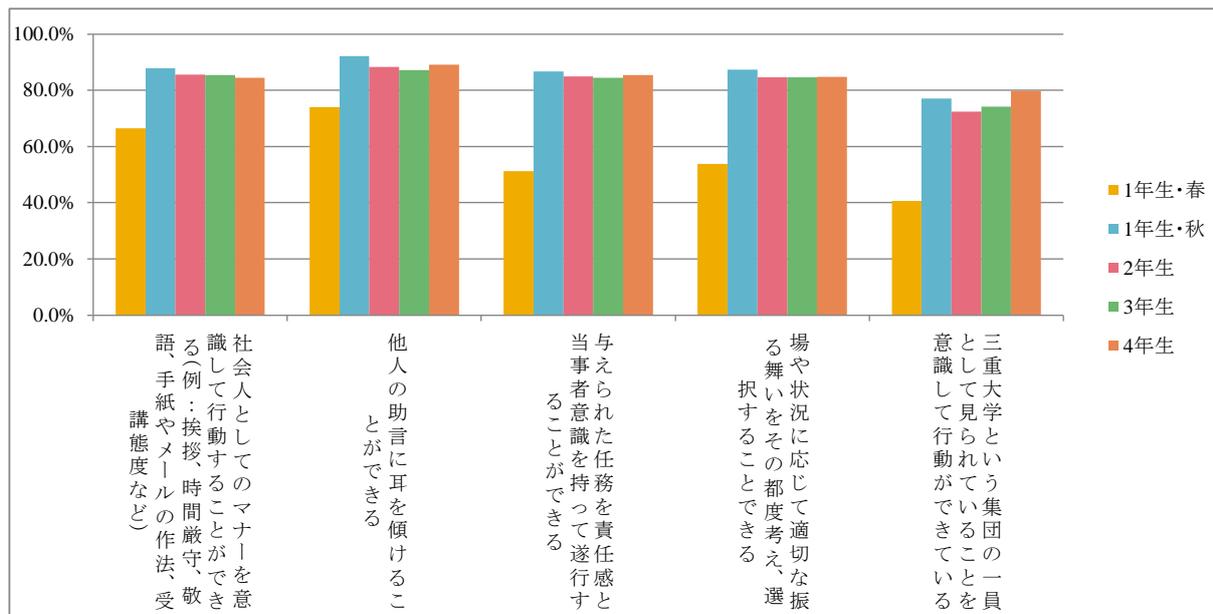


図2.3.4 社会人としての態度(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

⑪実践外国語力

どの項目も選択率が低かった。その中では、4年生の選択率は高く、特に「外国語で表現された専門分野に関わる必要な情報を手に入れることができる」については、他の学年よりも4年生の選択率が高かった。

表2.3.5 実践外国語力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

コミュニケーション力	⑪実践外国語力	1年生・春	1年生・秋	2年生	3年生	4年生	全学生
		全回答数 1,305件	全回答数 1,305件	全回答数 1,211件	全回答数 1,179件	全回答数 821件	全回答数 4,576件
	外国語で表現された専門分野に関わる必要な情報を手に入れることができる	11.7%	36.8%	39.6%	40.0%	49.9%	40.9%
	外国語で表現された一般的な情報を手に入れることができる	33.0%	55.9%	55.3%	48.9%	58.7%	54.2%
	外国語で日常生活に関する会話をすることができる	14.4%	36.9%	35.8%	33.8%	38.1%	35.9%
	TOEICで600点以上である	7.6%	28.9%	25.2%	28.7%	31.8%	28.7%
	外国語だけで話す生活体験を1日以上している	7.7%	21.1%	26.3%	26.6%	26.9%	24.9%

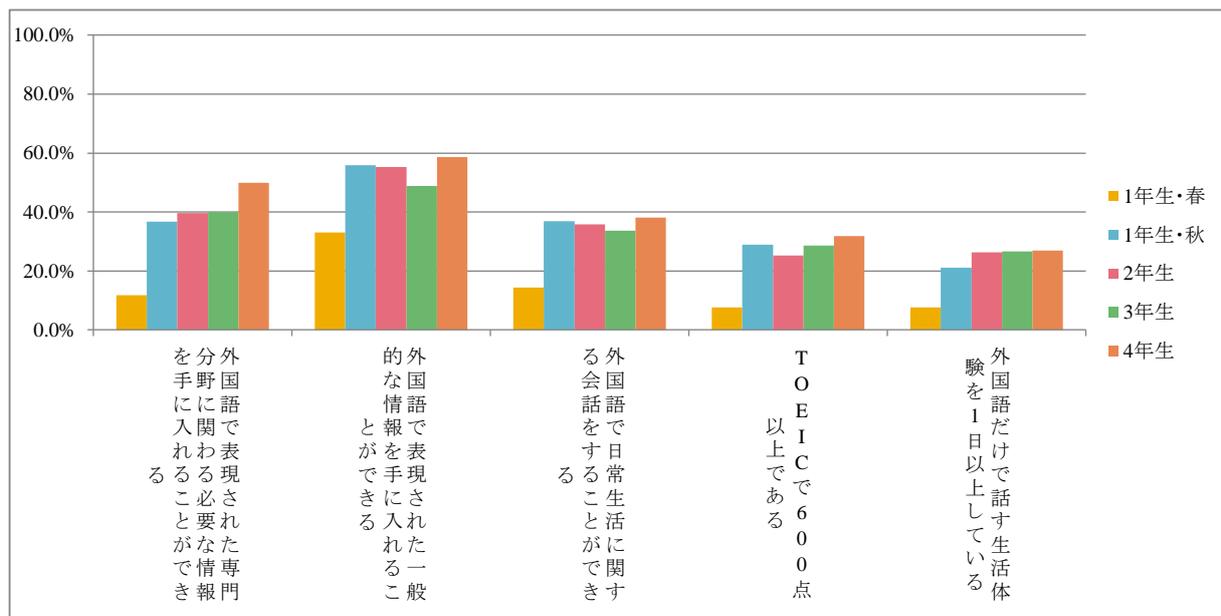


図2.3.5 実践外国語力(コミュニケーション力)の選択率(全学部生)

3. まとめ

全体を通して、選択率が高い項目、低い項目どちらも見られた。今回得られた結果をもとに、特に選択率が低かった項目については、選択率が上がるよう大学教育に反映し、改善を続けていく必要がある。また、どの項目も1年生春の時点は選択率が低かったが、1年生秋の時点になると選択率が高かった。1年生秋のデータは前期直後の回答であるが、大学教育を経験したことによって、選択率が高まった可能性が考えられる。ただし、両時点の回答者は完全に同一ではないため、解釈には注意が必要である。